

○黄金コデマリというのがある。すなわち *Physocarpus opulifolius* Max. だとすれば植物總覽第1版(1923)のケアメリカシモツケ、テマリシモツケの黄葉を混生する品種である。

○利久梅は *Exochorda racemosa* Rehd. のことで和名はウツギモドキ。

○タマアザミの名で切花になつているものは *Liatris scariosa* Willd. である。

○アフリカヒナギクの名で園藝目録に出ているものは *Dimorphothea aurantiaca* DC. で石井勇義氏の園藝植物圖譜第1版(昭和6)(1931)3巻で同氏がアフリカキンセンと新稱したもののことで、石井氏は園藝大辭典第1巻にもその名を用いている。

○無名の一品に *Coreopsis verticillata* L. がある。ハルシャギクに似ているが、葉がかたく舌状花瓣がハルシャギクの様に大きく裂けないで、先端部が極く少しく三裂し、色は黄色である。何れ新和名が必要にならう。

○アフリカヒマワリというのがある。 *Venidium decurrens* Less. である。

○フェジョアという苗木が近年賣出されている。すなわち *Feijoa* (= *Orthostemon Sellowiana* Berg.) で南米産フトモモ科の植物である。

○オウムソウと花屋で近頃呼ぶものは故松崎直枝氏が近世渡來園藝植物(1934)で *Beloperone guttata* T. S. Blandegge 和名コエビ(小海老)ソウとされたもので、この和名は英名である Shrimp plant に因んだものであつた。

○モメンズルの一産地(久内清孝) Kiyotaka HISAUCHI: A new locality of *As-tragalus reflexistipulus* Miq.

1952年群馬縣吾妻郡六合(クニ)村新花敷に於てモメンズルを得た。この植物の一産地として記録しておく。

□フロラは中々つきとめ切れぬものか

英國のフロラといへば探求の歴史も古く、地形的にも比較的簡單であつてもう調べつくされたものと思われていた。Nature 168: 934-5 (1951, Dec.) によると大英博物館で The Botanical Society of British Isles が英國内での昨年の新發見の植物についての展覽會をやつた記事が出ている。再検討による細かい種類、たとえば *Cardamine pratensis* を4種に分けたなどの外に、多數の新檢出が擧げてあるのもまだそんな餘地があるかと思われたが、スコットランドでイワウメ (*Diapensia lapponica* L.) の發見で一科を加えたこと、チシマミチヤナギ (*Koenigia islandica* L.) の發見とを特筆大書していることには驚いた。人の目はとどかないものであり、天地は廣いと沁々思つた。さて振りかえつてみると日本の様な“豊富な”フロラのところはまだまだ見込があるというか、又は逆にいつになつたらきりがつくというか。いささか複雑な氣持にならざるを得ない。

(前川文夫)